

令和3年度第1回学校運営協議会 概要

嶺北高等学校

日 時 令和3年5月12日(水) 18:00～19:30

会 場 嶺北高等学校 第一会議室

◇委員名簿

No.	区 分	氏 名	出欠	No.	区 分	氏 名	出欠
1	学校関係者	山田 憲昭	○	6	地域住民	高橋 清人	
2	保 護 者	神野 理江	○	7	地域住民	徳橋 正人	○
3	学校関係者	岩本 誠生		8	地域住民	山下 由子	○
4	学校関係者	高石 清賢	○	9	地域住民	油野 昭彦	○
5	学校関係者	松岡 寛	○	10	地域住民	山首 尚子	○

学校運営協議会事務局 和田 拓(嶺北高校 教頭)
高知県教育委員会 土方 聖志(高等学校課 指導主事)

1 委員委嘱

高知県教育委員会より各委員に委嘱状を交付。

2 開会行事

校長挨拶ならびに各委員による自己紹介。

3 会長・副会長選出

設置等に関する規則第6条に従い互選によって、会長に 徳橋 正人 氏、副会長に 山田 憲昭 氏 を選出。会長挨拶。

4 協 議

○学校概要説明(学校経営計画、教育課程等)

学校からの説明事項は「令和3年度学校経営計画」と「令和4年度教育課程」。以下の質疑応答等が行われた。

【高石委員】

- ・「学力の向上」について、①学力向上把握検査(1・2年)の評価指標である「A層30%以上・D層35%未満」は、目標数値をもう少し上げて良いのではないか。
- ・同「学力の向上」②「自主学習の仕方が理解できている」(肯定回答70%以上)について、昨年度末の評価時に、2年生の38.9%という数値について問題提起をした。新入試や新課程に向けて学習内容が変わることへの不安などの話があったが、本年度、何か対策を立てているか。
- ・「働き方改革」について、部活動の現状として週あたりの練習時間や外部の指導者の関わりの有無等は。

【徳橋委員】

- ・まず「学力の向上」から、A B層・D層の指標を昨年度と同じ据え置きとした考えは。

【山田委員】

- ・学力定着把握検査は学年によって各々の特色を反映しやすいところがある。また、昨年度の値のみに注目をして変えていくという考え方もある一方で、この数値は一時的な数値だと考えてもいる。この学力評価検査は事前に学習教材を与えており、それを真面目にやれば評価が高くなるという傾向にある。本校の生徒は非常に真面目に取り組むので上位層がA B層になるが、実際に土日の模擬試験を受けてみると、実力としてはまだまだという意見も多い。学力向上対策委員会を設置しているので、そこで上位層の育成についての議論を行い、令和4年度、あるいは令和3年度の途中からでも、上位層育成のプランが皆で合意できたら取り組み、数値自体は来年度から調整していく。D層についてもやはり波がある。県下でも嶺北高校はD層の値を大きく減少させてはいるが、数値を据え置きにしたのは、現状としてはいったん様子を見る状況と考えているというのが本音。
- ・自主学習の仕方の理解の38.9%は、本年度3年生の2年次での数値になるが、3年進級時に担任が変わったことなどもあり、今はまだ人間関係づくりを重視している。3年生前半の授業はダイレクトに進路につながってくるが、生徒の様子を見ながら、勉強の仕方も一人ひとり個別に、面談の回数を増やすなど各々の進路に応じて丁寧に学習の仕方を理解させていく、という方法をとることになる。

【高石委員】

- ・令和1年度の1年次には62.2%だったが2年で38.9%まで下がっていた。原因として学習内容の様々な変化ということが前回の会で言われていたが、今年の2年生が同じような状況にならないような対策は。

【山田委員】

- ・特別な対策は現時点では考えていないが、この調査は年2回しかなく生徒も変化するので、ふだんの成績とかクラスの様子を見るのは各学期の定期考査やそれに基づく成績会議などの機会を通じて、学習に向かっているかどうかを点検していきたい。
- ・部活動については、高知県教育委員会が作った運動部活動の活動方針で一週間連続した練習は制限されており、まず平日に1日は休養日を設けることになっているが、本校は月曜日を休養日している。加えて土日でも必ずどちらかで休養する。これは高知県全体の決まり。現在はコロナ禍を受けて基本的に平日2時間・休日3時間までの練習時間となっているが、これも警戒のステージによって増減する。対外的には、日曜日(5月9日)までは禁止だった県内の練習試合が解けたばかりという状況で、県外との練習試合は5月いっぱい禁止。県体に

向けてコロナの検査もやりつつ短縮授業などで部活動の練習時間を確保できるよう努力をしているというのが現状。

【高石委員】

- ・外部からの指導者は。

【山田委員】

- ・外部からの指導者は、現在は来ていない。カヌー部のラヨシュ氏については、本校の練習に来るのではなく土佐町のラヨシュ氏のところに行くというかたちで外部コーチを継続している。

【油野委員】

- ・ICTについて、昨年度の会でタブレット一人1台配布という話があったが、コロナ禍の先行きが見えない中で、ICTを活用して学校に集合せず授業を進めていく、というような取り組みへの見通しは。
- ・生徒数の増加について、連携中学校以外からの志願者も多いと思うが、その理由はカヌー部か、それとも他に何かあるか。

【山田委員】

- ・まずタブレット一人1台配付については、本山町のご尽力もいただき生徒全員に行き渡るかたちができている。町からの提供分がLTEモデルで県からの提供分がWi-Fiモデルと若干の異なりはあるが、学校にいるときは全ての授業で使用できるようにしており、教室の保管庫から出してすぐに使える体制を整えている。直近ではホームや情報の授業で使用する光景があった。昨年度2月・3月に導入されたばかりで生徒より教員の方が習熟を迫られており、年間3回の参観授業に加えてタブレット等のICTを活用した公開授業を、これも年間3回と設定しているほか、教員研修にも取り組んでいる。教員が慣れていくのに少々時間がかかるが、使ってもらわないと慣れていけないので、壊れてもかまわないから積極的に使うよう言っている。その延長線上に生徒が自宅待機になってしまうというようなケースが発生すれば、その時には朝のホームルームから日中の授業、そして夕方のホームルームまでをリモートで行うような研究もしていきたいと考えている。
- ・連携中学校以外からの志願者数の要因は、今回の11名については、滋賀県の琵琶湖付近の学校など、確かにカヌーの文脈は多かった。県外への広報に教員を行かせているが、その際は現2・3年生の出身中学校を訪問して情報収集したり付近を回ったりと地道にやっている。そうやって一人、二人と増えていくことが本校は大事だと思っており、その影響は出ていると考える。あわせて、この4月から新しい寮がスタートしたことは、保護者の方には非常にプライオリティが高い。住環境や家賃、食事の提供など、町営であるので詳細な回答は町の範疇になるが、学校からも「整備される」と伝えてきた。それも中学生が志願する理由となっている。ほかにも、四国の中でも高知県は太平洋側で不便に思われがちであるが、嶺北地域は立地条件として県外から来やすい。保護者や

生徒一人ひとりから聞いたわけではないが、高速道路にしても空港にしても、保護者の方に聞かれたら非常に良い立地であると答えるようにしている。そのように要因は一つではないが、カヌーの影響が出ているということはある。

【山首委員】

- ・「社会性の育成」の②で携帯・スマホ使用を「1日3時間以上30%未満」としている。県のアンケート調査として実施しているようであるが、この数値はあまり信用できないとも思っている。携帯を見るかどうかというのは生徒さんによって、例えば今はテレビを見ずに携帯でテレビ配信やドラマ、ビデオなどさまざまなものを見る。携帯をどのように使用するかということでは、友達とのやり取りやネットサーフィンなど使い方もさまざまである。

【山田委員】

- ・質問は「学習以外でどう使っているか」というものだが、学習との線引きがしにくい面もあるし、良い使い方もある。一方で、睡眠時間の問題や、家庭学習として与えている課題ができないほど生活リズムを崩してしまう生徒もいる。

【山首委員】

- ・それについては、家庭におけるけじめ作り、家庭でのルール作りがきちんとできているかどうかということになり、高校では遅く小中のことだと思う。「PTAと連携し」と書いてあるので、ぜひ小中学校からのけじめ作りを。その頃からしっかり取り組まないと高校での制御はなかなか効かない。

【山田委員】

- ・この地域は中学生までは持たせず高校での携帯・スマホデビューが多いのではとないかという印象だが、どうだろうか。

【神野委員】

- ・小学生から、という例もある。

【山首委員】

- ・小学生は、親の携帯でいろいろさわって見ているということもあるし、親自体も携帯を見ながら食事をしていたりする。そういう状態であるので、けじめ作り・ルール作りは小学校時代から家庭でしっかり取り組まないと、高校からではなかなか厳しい。
- ・けじめをつけることを学校からも啓発することにはなると思うが、親も実際にテレビではなくタブレットやスマホを見て暮らしているので、家庭でかなりしっかりとけじめをつけなくてはならず、なかなか難しい。この数値は評価の軸にはしていくが、どう取り組んだかということが大事ではないかと考える。

【松岡委員】

- ・今、スマホの調査の話があったが、学力の把握や県外生などについても、学校として立てた数値目標を達成したか否かに加えて、県が統一した形式で調査をしているのであれば県下のどのような状況なのか、その中で嶺北高校の位置づけとしてはどうなのか、そういうことがわかる資料もあれば提示されたい。今

すぐでなくても、年度末に向かってそういう資料を見て比較もしながら協議できれば。

- ・令和4年度からの教育課程「実践キャリアコース」「進学キャリアコース」については、理系の志望者が何人かいるという話があった。昔であれば1クラスにつき文系・理系や進学・就職と割り当てられていたコースも、今はそういうかたちにはできないと思うが、各コースおよそ何人になるのか。

【山田委員】

- ・来年度入学生から始まる教育課程であるので、現在の生徒たちからの選択はゼロであるが、想定としては各系列の下限を5人と考えている。4系列に各5人の下限で計20人。最少5人でも授業を開講するという。単純に言えば各系列に10人ずつ確保したいところだが、1学年40人はまだ実現できていないので、各5～10人で農業・商業・文系・理系の4系列を開講していきたいと考えている。

【松岡委員】

- ・5人以上が選択した場合にその系列が開講されるということか。

【山田委員】

- ・それぞれの授業を成立させるためには、各系列に5人以上は確保しないといけないと考えている。多いところは10人以上になってくるところもあると思うが、県教委の授業開講基準としてはおよそ5人以上がそれぞれの授業を履修していることとなっている。中学校長との会議でも新教育課程をお知らせしたが、今は3系統しかない選択肢が4系統になるのは非常にありがたいというご意見を町教委からもいただいている。あとは各系列を成立させる5人を確保するために生徒と話をしていかななくてはならず、調整も必要になってくる。

【松岡委員】

- ・それが決まるのはいつ頃か。

【山田委員】

- ・来年度入学生が2年生に進級するときのことを考えて調整が始まるのは夏明け頃から。希望の人数が出てくるので、面談をして調整する。2つのコースと4つの系列は実現していきたい

【松岡委員】

- ・自分が生徒の頃には卒業生が120数名おり、全校生徒はその3倍。コースや科目にきちんと先生がいて授業を選択できる状態。生徒数が少なくなると配置される先生の数も減り、授業自体が制約されてくる。

【山田委員】

- ・地元の中学生の数などいろいろ課題もあるが、なんとか40名以上を目指していかなくてはいけないと考えている。
- ・地域からは文系としてしか見られていないので、理系にもきちんと対応していくというところを見てもらいたい。

【松岡委員】

- ・自分たちのときには数学Ⅲというのとはなかった。追手前なら当然数学Ⅲもありそれが当たり前だったが、自分たちはそういう感覚ではなかったので、小さい学校でも選択肢が増えてきちんとできるというのは良い。

【山下委員】

- ・「働き方改革」について、部活動の練習時間が平日2時間・休日3時間までという話があった。カヌーで全国優勝するような子が出てきているが、今後も全国で優勝させていこうとするならば、練習時間の確保が重要になる。

【山田委員】

- ・カヌーは時間オーバーをしており、顧問にかなり負荷がかかっている。土佐町のカヌーアカデミーで活動する日を増やしていただくというような話し合いは継続しているが、部員の層も、カヌーアカデミーにあってラヨシュ氏の指導に耐えられるレベルから初心者のレベルまでさまざまであり、どうしても学校の教員が1から関わっていかなくてはならない子たちもいるので、顧問を3名に増やして指導時間を3名で分け合う形をとったり時間短縮の工夫に去年ぐらいから取り組んできたが、だいぶ改善されてきた。そのほか、休日の部活動の地域移行の動きもあるが、なかなか全ての部活動で実現できないのが現状。

【山下委員】

- ・土佐町は立派な施設、トレーニングジムなども整備してカヌー活動に力を注いでいる。

【山田委員】

- ・本校も使用させてもらっている。

【山下委員】

- ・層によって教える人を分けていけないといけない。日本で一番になることだけでも大変なことなのに、世界大会にも出るというような状況と働き方改革の両立は難しい。

【高石委員】

- ・土佐町ではラヨシュ氏をはじめさらに2人の指導者がいて3人体制で指導をする。加えて嶺北の先生もいるので、一緒になって力を合わせた指導を。

【山下委員】

- ・ぜひ頑張ってもらいたい。

【神野委員】

- ・生徒数が今年100名を超えたということについて、地元の中学生在が高校進学する際に選んでもらいたいという思いが強くある一方で、人口自体の減少という現実もある。新寮もでき、生徒が今後も増えていくために魅力の発信を手伝うことができたらと思う。山首さんから話のあったスマホについては耳が痛い、確かに学校だけが取り組むということではなく家庭で出来ることもたくさんあると思う。家庭と学校で協力をしながら改善できる方法をいっしょに考

えていけたらと思う。

【徳橋委員】

- ・地元の中学校を出て、嶺北高校ではなく他の高校に入る人の理由は。

【山田委員】

- ・そこまではなかなか把握できていないが、嶺北高校にない部活動がある学校や高大一貫の高専、あるいは理系の系列がある高校に入学する、といった例は聞いている。

【徳橋委員】

- ・工業高校へ行きたかったらどうしても地域外ということになる。

【山田委員】

- ・そういう方が数名いるということは聞いている。

【高石委員】

- ・他の高校に入る理由は3つ。部活、専門、それから進学。

【徳橋委員】

- ・3割くらいの生徒はどうしても出るということだろうか。

【高石委員】

- ・高専、工業、農業、それから土佐、学芸、追手前、進学率で。これは前からあまり変わっていない。

【徳橋委員】

- ・そうするとやはり、地域外からの志願者が大事になってくるということか。

【山田委員】

- ・もうちょっと上げたい。今は約63%の志願。上限かもしれないが、これを70%くらいまで上げて行きたい。

【高石委員】

- ・43名になったときがあるが、その時は72~3%だった。

【山田委員】

- ・年齢層・学年層によっても外へ進学していく生徒に違いがあると聞いているので、新しいカリキュラムと、地域外の生徒の受け入れについては寮の定員について、現在の寮以外の部分でどう対応するか、下宿か第2寮かというような議論はこれから徐々にしていくことになるかと思っている。

【高石委員】

- ・理系の数Ⅲなどは以前から要望もしており「希望者がいれば教える」という回答はもらっていた。ただ、このように明確に出ていなかったのも、中学生にはそういう情報が知られていなかった。だから嶺北高校で数Ⅲが学べるとは思っていない。こういうふうに明確にして伝えると、嶺北高校に行っても数Ⅲまで学べるということが明確に示せるので、これは非常に良いと思う。

【徳橋委員】

- ・進学キャリアコースの文系の3年生に数学応用演習や化学・生物の基礎演習と

いった科目があるが、これは必修科目か。

【山田委員】

- ・必修科目ではないが、文系として国公立大学への進学を考えるにあたっては必要な内容となる。

【徳橋委員】

- ・国公立を視野に置いたカリキュラムということでよいか。

【山田委員】

- ・進学キャリアコースは基本的に国公立の文系あるいは理系を考えている生徒たちに集まってもらいたいと構想している。

【徳橋委員】

- ・高い志をもってやっていただいたら、と思う。
- ・「社会性の育成」③の1年時末の進路希望者は前回も話題になったが、昨年度の74%について、これは1年次に希望を出さないといけないということか。

【山田委員】

- ・県の調査にあわせて学校の方でも独自に定期的な調査をしているが、未定の生徒には、悩んでいるのではないかと。未定はどういう理由か、といった面談を定期的に行って、順調にいけばある程度の方向性が固まって具体的な道筋ができたならここに数字として現れてくる。

【徳橋委員】

- ・昨年は希望率が74%、26%の生徒さんが未定だった。割合としては多いのではないかと思うが、指導は。

【山田委員】

- ・個々の面談や、調査の結果を受けた個別の指導などに取り組んでいくしかないかと考えている。

○意見交換

【徳橋委員】

- ・昨年実施された、生徒さんの生の声を聞く場について、本年も機会を作っていたきたい。経年で生徒さんがどんな変化をしているか、また、どんな思いを持っているか、委員として生徒さんからお聞きしたうえで提言をさせていただくという機会を2学期頃のどこかで、と考えている。

【山田委員】

- ・目安としては2学期くらいがまとまった取り組みをしている時期になる。2・3年生であれば1学期でも可能とは思いますが、総じては2学期頃が適切だろう。コロナの状況を見ながら準備をすすめていく。

【徳橋委員】

- ・委員の皆さんからも学校への要望などあれば。

【松岡委員】

- ・自分も嶺親の会に入っているが、地域外からの生徒について、次回の時にでも

各学年、学校での様子を。

【山田委員】

- ・いつでもかまわないので、事務室で「授業見せて」と言ってもらえたら。木曜日の6時間目が探究の授業。普通の授業でよければ基本的にいつでもかまわないし、参観日を設定した方が来やすいということであれば、例年どおり設定させていただきたい。

【松岡委員】

- ・来るつもりでいても来られない時もあるし、参観時の1場面だけというよりは、仲良くやっていっているかとか、ふだんの学校の様子がどうかというようなことを。人が見に来ると生徒の様子が変わったりもする。

【山田委員】

- ・ふらっと来て校内を回って帰るといいのが良いが、前日ぐらいに言ってもらうのがなお良いと思う。教員の仕事として見られて恥ずかしい授業を生徒の前では絶対にしないというのは常識だと思っているが、どうしてもテスト返却のタイミングであったり、年度当初であれば検診が入って教室に誰もいないような時もある。電話で翌日の日程を確認するなどしてぜひ来てもらったらと思っている。

【徳橋委員】

- ・県体に出場する部活動は。

【山田委員】

- ・剣道、カヌー、バドミントン、卓球、バレーボールの5つ。バレーボールは、コロナが拡散した大会には出ていなかった。県体に出るべく準備を進めていたので、影響は全く受けていない。

【高石委員】

- ・バレーボールは単独での出場か。

【山田委員】

- ・単独での出場。ただ、3年生が抜けるとまた厳しくなるというのは聞いているので、気にはなっている。

5 閉会行事

第2回協議会を11月頃の開催とし、昨年度第2回と同様に授業参観や生徒との意見交換の場を設定することを確認。会長挨拶。